



News Letter

No. 12

2004年5月1日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-403

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8590 FAX 03-3530-8578

イラクの日本人人質事件

世界の民衆のネットワークが人質を解放した

松原明(レイバーネット日本副代表)



自衛隊の撤退を求めるワールド・ピース・ナウ4.18

4月8日、イラクで日本人人質事件発生の一報が入るや、これまでイラク反戦運動に取り組んできたグループ・個人はすばやく動きはじめた。人質がイラクの友人であることを伝えるために、アルジャジーラTVに情報を送る運動が起こり、直接現地に行く人も現れた。翌日から、国会・首相官邸前では「3人を救え、自衛隊は撤退しろ」の要請行動が行われ、日を追うごとに人数がふくれあがった。11日には労組も多数参加し、官邸前の歩道は2500人の怒りの人々で埋まった。国会前のこんな光景は十年来なかったことだ。こうした市民・労働者の動きは、アルジャジーラTVを通してイラクの人々にも届いた。

また現場で120万円以上のカンパが集まり、人質にされた家族を物心両面で支えた。

レイバーネット日本の通信員メンバーは、連日、国会・官邸前の抗議行動にはりつき、画像・レポート・行動予定を送り続けた。ウェブサイトのアクセスは急増し1日1000件に達した。運動系のインターネットはフル回転した。とくにメーリングリストの役割は大きかった。wsfj(世界社会フォーラム)・pmn(民衆のメディア連絡会)・aml(オルタナティブ運動)をはじめ無数のメーリングリストが、マスコミでは知ることのできない貴重な情報を流し、行動を組織し、ディスカッションを促した。

今回の事件解決に具体的役割を果たしたのは、世界社会フォーラムで培われた反グローバリズムのネットワークだった。ATTACなどが早い段階でイラク国内の民衆グループとコンタクトをとり、拉致グループとの接触に成功した。その後、フランス在住の「グローバルウォッチ」コリン・コバヤシさんからは、解放への動きが的確に送られてきた。小泉政権が「自衛隊は撤退しない」と拉致グループを刺激し、解決を妨害するなかで、こうしたNGOの人たちの懸命な努力が解放をもたらす大きな力になったのだ。

人質解放は実現したが、基本的問題は何も解決していない。政府と一部マスコミは「自己責任キャンペーン」を行い、事件の本質(自衛隊の派兵問題が原因)をずらそうとしている。米軍によるファラージャでの蛮行は続き、日本は軍事国家化の道を進んでいる。今回の「成果」を糧にして、民衆側の運動をもっともっと大きくしていきたいものだ。

5月例会案内 「世界社会フォーラムと新しい民衆連帯の可能性」

2004年5月15日(土)午後2時～5時(1時30分開場) 東京自治研究センター会議室

今年1月にインドのムンバイで第4回世界社会フォーラムが開かれました。多国籍企業と一部の超大国に支配された世界ではない「もうひとつの世界は可能だ!」をスローガンとして世界中の社会運動から活動家が集まり議論と交流した大集会でした。レイバーネット日本からも6名が参加しました。この世界社会フォーラムでつながった世界の民衆ネットワークが、イラクでの日本人人質3人の解放にもおおいに効果を発揮したとされています。新しい国際的な民衆連帯の可能性と課題について自由に話しあいましょう。ビデオ「もう一つの世界は可能だ」(小山帥人制作)上映

会場(千代田区四番町4 日本染色会館2F、JR市ヶ谷、地下鉄市ヶ谷駅3番出口から日本テレビ通り徒歩3分。地下鉄有楽町線麹町駅6番出口から日本テレビ通り徒歩3分。)

レイバーネット日本第4回総会

運動現場からの情報発信を強めよう

レイバーネット日本事務局長 河添 誠



レイバーネット日本第4回総会が2004年2月28日(土)、シニアワーク東京で24名の会員の参加で開かれました。2004年度活動方針と会則改正、会計報告が承認され、新役員も選出されました。総会では、会員数をさらに拡大していくための会則改正がおこなわれました。

第二部として、木下武男さん(昭和女子大学教員)に「グローバル化の進展と新しい賃金論/労働運動論」と題して講演していただき、会員外からの参加も含めて33名の参加者とディスカッションしました。講演では、新自由主義的グローバル化の下で、国際的な「底辺に向かう競争」がおこっており、WTOなども無限の競争を担保する国際的枠組みとしてできあがっていることを強調されました。

そうした状況の下での、新しい労働運動は「緑(エコロジズム)、ピンク(フェミニズム)、新しい赤(刷新された左翼)」の三つの価値を持つべきと問題提起されました。

- 2004年度活動方針

1. 運動の現場からの情報発信をさらに進める
レイバーネット日本は、2001年の設立から3年間で累計256000ものアクセスのある社会運動系のウェブサイトとしてはアクセス数のかなり多いサイトとなった。このことはレイバーネット日本がマスメディアの十分に報道しない労働運動や反戦運動や反グローバル化運動を積極的にとりあげたことが大きい。特に、このことは発足当初から重視していることであるが、運動に参加している人自身が情報を発信するサイト運営スタイルが徐々に定着し情報が多く寄せられるようになったことも重要である。今後とも運動の現場からの情報発信をさらにつよめるための活動を進める必要がある。

(1) インターネット・デジカメ講座を開催する労働運動の現場活動家がインターネットを使って情報を収集したり、電子メールを使って情報交換をしたりする技術を活動に活かせるように講座を開く。ごく初歩的なインターネットや電子メールの使い方を教える初級講座、ホームページ作成などのやや上級の講座など、レベルや需要にあわせて講座を開く。

また、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラの初歩的な撮影講座も開く。これらの講座は、労働組合などへの「出前講座」も可能な限りおこなう。

(2) ウェブサイトの管理を担うことのできる上級者育成のための技術講習をおこなうADSLなどが普及することにより、動画なども提供することが可能となっている。運動の中でインターネット技術に長けた人材を育てていく。

2. ウェブサイトの充実のために

(1) 動画の提供韓国のレイバーネットの協力により動画が提供できるようになった。世界社会フォーラムの動画は、日本国内の他のサイトでは見ることができない。おそらく唯一見られるのはレイバーネット日本のサイトだけである。マスメディアが報道しない運動の姿を動画でも伝えられることになったことは重要である。海外情報の充実、国内情報の海外への発信海外滞在中の会員からの定期的な情報提供や定期的な翻訳情報もかなり増えてきたので、情報は充実しつつある。特に韓国の運動情報は、日本語で読めるサイトとしては他に類を見ない充実である。トップページ掲載の国内情報を英訳して提供するにはしているが、遅れ気味である。国際部の翻訳体制を強化して対応したい。

(2) 文化情報の強化運動の文化をつくりだすために、労働運動や労働者に関わる映画・演劇などの紹介・批評を強化する。特に若い世代に労働運動を身近なものとして接近してもらうためにも文化の情報を重視する。

(3) インターネット放送の具体化インターネット放送のための技術的検討を開始する。番組内容についても会員からの意見を集めて制作していきたい。

3. 例会の年4回程度の定例化 昨年は、4月にWORLD PEACE NOWの実行委員の方とバグダッドでの「人間の盾」に参加した方をお招きしてイラク反戦運動に関する例会を開いた。8月には、フランスでフランスの労働組合SUD-PTTとの交流をしてきた郵政労働者の方のビデオ上映会を開いた。会員交流の貴重な場なので、年4回の定例化を今年こそ実現したい。

4. ニュースレターの定期発行 ニュースレターは、印刷を改善し、写真などもきれいに印刷されるようにして発行するようにした。内容もさらに充実させつつ定期発行したい。

5. 「レイバーフェスタ2004」にむけて全面的に協力していく 昨年のレイバーフェスタは、参加者の感想は好評だったが、宣伝・チケット販売等であまりうまくいかなかった。今年は、日程やスタイルも刷新して、特に若い人に魅力のある労働者文化祭としてのレイバーフェスタを成功させたい。また、今年は関西でもレイバーフェスタを開催するうごきが始まっている。関西でのレイバーフェスタにも協力して成功させたい。

6. 関西でレイバーネット日本のネットワークを作る。関西地域での例会を独自に開いてレイバーネット日本の関西でのネットワークをつくる。

7. レイバーネット日本の本の出版の検討 レイ

人質解放の主役は若者たちだった

片柳 悦正

4月8日に発生したイラクでの人質事件は、3名の解放をもって一応の終結を見た。しかし、自衛隊の撤退がされることもなく、軍事的緊張と住民生存の危機という重い課題が未解決ということもあって、事件の区切りがついた今日でも晴れ晴れとした気持ちには皆なれないでいる。

だが、今回の事件で不幸中の幸いとでも言うか、「次の時代の展望が見えた」という大きな成果があったのではないだろうか。それは、若年層の活躍だ。私も彼らと一緒に徹夜で張りついて動いた。事件が起きる前まで世の大人たちは、「最近の若者は反戦運動ひとつしない」と嘆いていたのだが、いざ事件発生となったら現実とは全く逆であった。

10代、20代の若者たちは、「人命は尊い」という一心からあらゆる努力をした。首相官邸に抗議し、電話をかけ、メールを流し、HPに書きこみ、国会に足を運び...と次々と行動をした。「自衛隊は撤退すべき」と堂々と主張もした。国会前には延べ1万人以上の方が足を運んだが、その大半は若者だった。わずか3日間の間に街頭署名で6千筆近くを集めもした。街宣車に乗って演説もした。駅前で議論もした。自衛隊派兵賛成VS反対という街頭投票もした。メッセージボードを作り千枚も集めた。ハンストもした。座り込みもした。直接カタルヘ向かいもした。



こうした、若者の行動はTVやメールを通じてイラクの人々に確実に伝わることとなった。そして、そのことが3人の人質解放に大きな影響を与えた。また、イラクで人質になった一人は18歳という若さであり、イラクでの核汚染を何とかしたいという思いから悩みに悩んだ末イラクに行っていたということが明らかとなり、日本にこんな青年がいたのかと皆一応に驚いたのではないだろうか。彼らの姿に心を動かされた方も多いのではないだろうか。

それに引き換え、大人の側は多いに反省が必要であろう。小泉首相以下、政府は家族に面会しようともせず、マスコミは家族バッシングを平然と行い、大組織は何もしなかった。人の生死にかかわる事態に能書きを垂れるだけとはあまりに情けない。

バーネット日本をより広く知ってもらい活用してもらうための本の出版を検討する。

8. インターネットの国際ルールのあり方にも関心を払って発言していく。

9. 海外での労働メディア運動と積極的に交流していく。今年1月にムンバイで開かれたAPWSLの会議で、レイバーネットアジア発足が具体的に検討されることになった。海外の労働メディア運動とこれまでも活発に交流をおこなってきたが、さらにアジア地域へレイバーネットを広げるための活動を強める。

10. NPO法人化をめざす。サーバーや回線の確保や財政の確立をはかるために、運動団体からの援助や公的援助(たとえば、パソコン教育の助成、海外交流の補助など)を受けやすいようにNPO法人化をめざす。

会則改正

<以前の会則> 3 本会は、設立趣意書ならびに本会則に賛同する個人で構成する。労働組合、労働団体等は賛助会員となることできる。

<改正後の会則> 3 本会は、原則として設立趣意書ならびに本会則に賛同する個人で構成する。なお、労働組合、労働団体等も個人と同等の資格で会員となることできる。

<改正の理由> 団体での加入を認めることにより、より多数の参加が見込めるため。なお、加入は団体でできるようにするが、議決権等は個人と同等の資格すなわち1票とする。また、団体での加入を認めるため、賛助会員制度は廃止する。なお、運用については、別に運営細則を定めることにする。

2004年度役員

代表：伊藤彰信(全港湾)副代表：松原 明(ビデオプレス)同 安田幸弘(市民電子情報網)事務局

長：河添 誠(東京公務公共一般組合員)事務局次長：片柳悦正(全港湾)同 武田 敦(首都圏青年ユニオン)

運営委員：浅井真由美(協同センター・労働情報)安斎徹雄(出版ネット組合員)石川正志(たたかう闘争団に連帯する首都圏の会)岩川保久(民衆のメディア連絡会)木下昌明(映画評論家)小山帥人(ジャーナリスト)佐々木有美(ビデオプレス)神野圭介(首都圏青年ユニオン)高幣真公(APWSL日本委員会)竹田和夫(ジャパンユニオン)田島省三(国労闘争団)中野 聡(山谷労働者福祉会館)新田進(小川町シネクラブ)広浜綾子(出版ネット)安田浩一(ジャーナリスト)八幡純一(国労組合員)山原克二(ゼネラルユニオン)会計監査：下見徳章(「伝送便」編集委員)

会計報告 2003/1/1 ~ 2004/2/16

<2002年からの繰り越し> 349,120

<収入の部>

・会費(120人分)	360,000	
・カンパ	3,000	
・例会参加費	8,300	
・雑費(写真販売等)	18,011	小計 389,311

<支出の部>

・ニュース発送費	83,740	
・会場費	29,700	
・文具(封筒など)	19,693	
・印刷費(チラシ等)	13,860	
・通信費(切手等)	8,860	
・交通費	20,440	
・ネット関係費	26,775	
・例会講師謝礼	52,884	
・振替手数料	5,040	
・雑費(コピー等)	8,517	小計 269,509

<差し引き> 119,802

<フェスタ貸付金> 235,400

<差し引き残金> 233,522

根岸の里パソコン塾で技術講習会を開催 レイバーネットに自分でニュースを載せよう

4月10日(土)午後、東京の「根岸の里パソコン塾」を会場にレイバーネット日本技術講習会を開いた。生徒が6人に講師が3人という贅沢な講習であった。集まった生徒は大方中年の労働者活動家たち。レイバーネットにニュースや写真、行事予定などを自分で掲載できるようにすることが今回の目標であった。

最初に松原明さんがインターネットのメールとホームページの原理と使い方の基本を説明した。そして、レイバーネットではホームページを書くための文法であるHTMLを知らなくても、記事を掲載できることを説明し、早速パソコンで最初に行事予定(イベント欄)の掲載を実践した。2番目の講師は高幣真公(APWSL日本)が写真の縮小やトリミング(欲しい部分の切り抜き)の技術について解説した。デジカメで撮った写真はデータ量が大きく、そのままではHPに掲載すると重くなる。サイズを小さくするために簡単なソフト「縮小専用」(フリーソフト)を紹介した。写真のトリミングはウィンドウズのペイントを使って説明した。

最後の講師は安田幸弘さん(レイバーネット技術担当)で、生徒からのどんな質問にも答える。技術よりもコンテンツ(伝えたい内容)が大事という彼の信条を話した。6人の生徒達は教わったことをPCに向かって一生懸命に実行していた。その成果は、下記の参加者の体験記に示されている。(高幣)

学んだ技術を役立てたい

4/10はWPNの呼びかけの人質救出、自衛隊イラク撤退要請に行った後、技術講習会に参加しました。参加者は6名、講師3名でしたがレイバーネットの書き込みについて、詳しく教えていただきました。た

<新入会員紹介>

レイバーネットの魅力 西本 敏子

1月に入会したイセキ開発工機訴訟原告の西本敏子です。昨年12月の勝訴判決を【東京地裁で連続勝利したイセキ開発工機訴訟】と、トップニュースに載せていただいたのがレイバーネット入会のきっかけでした。

レイバーネット日本サイト内に自分のホームページを持つ事は、争議中の私にとっては最大の魅力です。女性差別による32%賃下げ裁判と民事再生下の整理解雇裁判について、内容・経過・判決など知ってもらいたい事が山ほどあります。原稿は私、デザインやアップ作業は友人と二人三脚で3月にようやく完成しました。高裁進捗状況や原告の思いなどは順次追加していく予定です。ホームページのタイトルは「闘いは、しなやかに、したたかに」です。しゃれたタイトルを友人がつけてくれました。レイバーネット日本サイト内では「小川町シネクラブ」に続く第2号です。ftpによるアップ作業は、かなりてこずりましたが技術担当の安田幸弘さんが、どんな質問にも素早く丁寧に答えて下さって技術面のサポートをして下さいました。

レイバーネット日本のもう一つの魅力は、個人を単位とした会員制度である事です。総会や拡大事務局会議に参加しましたが、1人1人が対等で自由に意見を述べるのが印象的でした。

会員メーリングリストには毎日いろんな情報が入



だ残念なことに写真の貼り付けについてはなんとなくわかったつもりになったのですが、家に帰ってみるとさっぱりわかりません。多分パソコンの調子が悪く自分で操作してみなかったからだとおもいます。ニュースとイベントの書き込みは何とかかなりそうです。200名以上の会員がいるのにホームページを書き込んでいる人はほんの数名とのことで、なんとか書き込みをマスターしてレイバーネットと日本の労働運動にささやかでも役に立ちたいと思います。(西巻哲男)

中身の濃い講習会

今日の技術講習会で自分がアップしたイベント情報を帰宅してから編集してみた。ちゃんと出来ました。これで自信ができました。イベントカレンダーは、私の知り得た情報をどんどんアップしていきます。今日の技術講習会は、和気藹々で何でも質問できて、且つ中身の濃い講習会でした。(西本敏子)

ります。いつも思い知らされるのは、自分がいかに狭い世界で生きてきたかということです。今はメーリングリストを読むだけの会員ですが、4月の技術講習会でデジカメ操作から記事アップまでの手順を教わるので、メール通信員にデビューできる日も近そうです。自分の争議を含めた情報発信と、その経験も共有できればと願っています。市民運動も労働運動も初心者マークの会員も、気後れせず参加できる運営を維持していただきたいと思います。

レイバーネット日本 の会員になりませんか

年会費 3,000円
郵便振替 00150-2-607244
レイバーネット日本
郵送宛先
〒173-0036 東京都板橋区
向原2-22-17-403
レイバーネット日本事務局
入会申込用アドレス
apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8590
ファクス 03-3530-8578
現会員数 220名



(イラスト: 広浜綾子)